

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2024 年度 第 3 回理事会議事録

日 時：2025 年 3 月 7 日（金） 15:00~18:50

場 所：東京都中野区中野二丁目 2 番 3 号 web を活用し開催（zoom）

出席者： 理事長 石田 秀行
副理事長 青木 大輔 石川 秀樹
理 事 有賀 智之 井本 逸勢 大住 省三 川崎 優子 隈元 謙介 下平 秀樹
西垣 昌和 平沢 晃 平田 敬治 門馬 智之 山口 達郎
監 事 鈴木 眞一 武田 祐子 田村 和朗
司法書士 寺本 俊孝
オブザーバー 中島 健
事務局：石坂 和子 内山 覚巳 皆川 裕美
編集事務局：中田 るり子

理事 14 名、監事 3 名が出席し、web（zoom）による出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態にあり、本会が成立することが確認された。以下、石田理事長が議長となり議事を進行した。

議 事：

【報告・審議事項】

1. 理事長報告

石田理事長より、資料にもとづき、30 周年記念誌作成の進捗状況、「遺伝性腫瘍症候群に関する多遺伝子パネル検査（MGPT）の手引き 2025 年版」の発刊予定、地方会の設立準備状況、日本医学会加盟申請、Lynch 症候群研究会の本学会での管理移行（予定）に伴う臨床委員会（仮称）、特別委員会（仮称）などの設置予定、LFS ガイドライン作成の進捗状況、評議員選出、理事選挙への電子投票システム採用、遺伝性腫瘍セミナーにおける転載許諾・転載料支払いに関する対応、Lynch 症候群の遺伝学的検査の保険収載に向けた共同提案について報告があった。

編集事務局の中田より、30 周年記念誌について 3 月中の発送であることの報告があった。

2. 庶務報告

資料にもとづき、会員数・新規入会者（2025 年 2 月 28 日現在）、会費納入状況（2025 年 2 月 28 日現在）について報告があった。

3. 第 31 回学術集会（2025 年）準備状況報告

平田会長より、資料にもとづき第 31 回学術集会準備状況、オンデマンド配信はなく現地開催のみの予定であるとの報告があった。

4. 各種委員会報告・審議

① 遺伝性腫瘍セミナー委員会：吉田理事（欠席につき、代理で中島健委員長より報告）

資料にもとづき、第 27 回遺伝性腫瘍セミナーの開催報告、第 3 回遺伝性腫瘍アドバンスセミナーの準備状況、第 28 回遺伝性腫瘍セミナー開催（2025/08/30~31）予定、について報告があった。また、第 27 回遺伝性腫瘍セミナー開催時に発生した遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン転載許可申請に関する経緯、ならびに今後の著作権への対応について報告があった。

② 総務委員会・評議員選出委員会：平田理事

資料にもとづき、前回理事会以降の通信理事会決議事項が報告された。次期総会の議案事項としての、名誉会員・特別会員の推戴、今後の学術集会会長の選任について承認された。理事選挙スケジュールについて報告があった。また、当日資料として四国地方会、東北地方会の申請書が提示・承認され、次回評議員会へ議案提出することとなった。

③ 将来検討委員会：石田理事長

資料にもとづき、臨床委員会、特別委員会の設置について審議され、これに伴う定款細則の変更が承認された。

④ 会則委員会：門馬理事

資料にもとづき、定款細則の変更、理事選挙電子投票に関する理事選挙施行細則の変更、地方会発表の業績評価に関する評議員選出細則、遺伝性腫瘍専門医制度細則の変更について承認された。

④ 財務委員会：大住委員長

資料にもとづき、現時点での 2024 年度決算見込み、2025 年度予算（案）について審議され、次回評議員会までに修正の上、提出することが承認された。

⑤ 編集委員会：下平理事

資料にもとづき、「遺伝性腫瘍」の発刊状況、投稿論文審査状況、投稿勧誘予定について報告があった。英文誌創刊と運営にかかる費用の種類と見積について報告があり、継続審議となった。また、Editorial Board、ならびに associate editor の設置について説明があり承認された。

⑦ 専門医・HTC/FTC 制度委員会

● 専門医制度小委員会：隈元理事

資料にもとづき、第 8 回遺伝性腫瘍専門医試験の結果、専門医更新申請結果、正規遺伝性腫瘍指導医申請期間の公示、暫定指導医新規・更新の審査結果、2025 年度 e-learning コンテンツ作成について報告され、専門医試験に関する会計報告も含め審議・承認された。

● HTC/FTC 小委員会：川崎理事

資料にもとづき、HTC 移行申請・経過申請・更新申請・認定試験の審査結果、FTC 更新申請の審査結果、について審議・承認された。第 31 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会での委員会企画としてのシンポジウム開催予定、活動紹介ページ開設について報告があった。

⑧ 学術教育委員会：平沢理事

資料にもとづき、市民公開講座の開催状況、遺伝性腫瘍症候群に関する多遺伝子パネル検査(MGPT)の手引き作成の発刊予定、第 31 回学術集会での教育セッション開催予定について報告があった。

⑨ 保険診療委員会：平沢理事

資料にもとづき、委員会活動内容、診療報酬改定に関する内保連での調整状況について報告があった。

⑩ ガイドライン委員会：大住理事

資料にもとづき、Li-Fraumeni 症候群の診療ガイドラインの改訂状況について報告があった。

⑪ COI 委員会：大住理事

2024 年度の COI 申告状況について報告があった。

⑫ 倫理審査委員会：井本理事

報告事項なし

⑬ 広報委員会：有賀理事

資料にもとづき、委員会活動内容、ニュースレター配信状況、HTC・FTC 制度委員会の広報、英語版 HP の掲載、転載申請の審査結果について報告があった。

⑭国際委員会・がんゲノム・データベース（GDB）委員会：山口理事

国際委員会：資料にもとづき、トラベルグラント選考結果について報告があった。また、国際学術集会に関する会員へのアナウンスについて広報委員会の協力依頼があった。

GDB 委員会：LS レジストリ研究に関する立ち上げ準備状況、日本消化器病学会附置研究会「がんゲノム医療時代における Lynch 症候群研究会」の本学会臨床委員会への移行予定、について報告があった。

⑮遺伝カウンセリング委員会：西垣理事

委員会活動として、遺伝性腫瘍を専門としないがん診療従事者（非会員を含む）への啓発動画の作成状況について、年度内に作成し公開する予定であるとの報告があった。また、Cowden 症候群サーベイランス手帳について、一部修正が必要との指摘があり、修正することとなった。

⑯作業部会委員会：石川理事

資料にもとづき、LFS 部会、Cowden 症候群部会、SPS 部会、PJS 部会の活動状況について報告があった。LFS 部会について、継続申請があり承認された。また、新規部会(HDGC 部会)の申請があり、承認された。作業部会委員会内規の改訂として、競争資金への申請には、班員等として理事、名誉会員、特別会員、理事または評議員を含めることに変更したとの報告があった。

4. その他

・理事推薦評議員：石田理事長

理事推薦評議員候補者 65 名について提示があった。評議員申請をしたものの要件を満たさなかった 7 名、理事推薦 24 名、及び現評議員で継続申請をされなかった 34 名にメールで評議員就任の諾否の連絡を行い、その後通信理事会で審議することとなった。

・高額医療費に関する声明：山口理事

当学会として高額療養費制度における負担上限額引き上げに関する声明を出すことについて審議され、継続審議となった。

以上をもって議事の全部を終了し、議長は 18 時 50 分閉会を宣した。

以上議事経過ならびに結果を明確にするため本議事録を作成し、理事長および出席監事は次に記名押印する。

以上